

NEWS

Niigata University of Health and Welfare
Teaching Career Support Center

LETTER

CONTENTS

1. 巻頭言：子どもの健康課題解決に向けた支援
～養護教諭が行う「みる」を通して～
2. 授業紹介：体育授業実習
3. 教職課程 担当教職員
4. 退職教職員
5. スペシャルインタビュー
6. お知らせ
7. あとがき



子どもの健康課題解決に向けた支援 ～養護教諭が行う「みる」を通して～

教職支援センター運営委員 丸山 幸恵（看護学科）



子どもの現代的な健康課題が複雑化・多様化しており、様々な連携を図りながら課題解決を目指すことが重要とされます。学校では、養護教諭が学校保健活動の推進に当たり、校内及び地域の関係機関等との連携におけるコーディネーター的な役割が求められています。

5年ごとに実施される「保健室利用状況に関する調査報告書 令和4年度調査結果（日本学校保健会）」https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_R050070/index_h5.html#1 2024年6月16日閲覧）によると、1日平均保健室利用者数は、小学校15.8人（前回調査22.0人）、中学校12.6人（同19.0人）、高等学校14.2人（同19.8人）です。調査期間中のCOVID-19感染症対策（症状がある時は登校しない、体調不良は保健室では休養させず早退させる等）が今回の調査結果に影響しているかもしれませんが、この数値を見てどのように感じますか。学校規模によっても異なり、最も多い小学校の大規模校（500人以上）では、1日平均利用者数が35人です。ちなみに、1回平均対応時間は、小学校9.8分、中学校15.6分、高等学校18.2分で学校段階が上がるにつれて長い傾向にあります。私自身、学校現場で養護教諭の経験がありますが、一度に多くの子どもが保健室を訪れることもよくありました。緊急性の高い救急処置が必要な場合を除き、養護教諭は常に子どもの心と体の両面を考え対応する学校で唯一の専門職です。今回は、私が対応の際に大切だと思うことを2つ紹介します。1つ目は五感を通した「みる」「きく」（これはいつもセットです。）、2つ目は「この子にとってどんな

つながりが必要だろうか」と常に連携を意識しながらかかわることです。今思うと、この2つは意識しなくてもいつも頭にあり、行動していたように思います。そしてどちらも多くの養護教諭が行う特有の視点でもあるように感じます。

次に、養護教諭の「みる」に焦点を当て、以下に1冊の本から紹介します。

保健室から生まれた「6つのみる」

①教室全体を「見」わたす、②一人ひとりの様子を「観」る、③あれっと思う子を少し詳しく「視」て、④何かあったかなと「診」る、⑤何か手伝わせながら声をかけて「看」る、⑥深刻ならば「相」る時間をつくる。（渡邊真亀子著「保健室の先生だけが知っている子育て」総合法令出版2021）

この「6つのみる」は、自分の経験と重なる部分が多く、改めて「みる」ことを整理できました。養護教諭が学校全体を「みる」時の視点にも通じています。対応する問題によって連携チームのメンバーや組み立て方が異なります。いざというときのために、教職員が日頃から自分の周囲を見渡し「みておくこと」がその備えの一助となるのではないのでしょうか。

授業紹介「体育授業実習」

健康スポーツ学科の3年次に開講されている「体育授業実習」は、体育科教育法などの授業で学んだ理論や指導法を、主に模擬授業を通して実践し、指導力を身に付けることを目的とした科目です。教職選択の科目であり、毎年教職志望度の高い30名前後の学生が履修しています。

授業の前半では、理論学習と短時間の模擬授業を繰り返し行います。後半では、1時間分の授業を行えるように計画・実践・振り返りを繰り返し行います。また、新潟県内の小・中学生を対象にした交流会に参加し、学生が小グループのリーダー（コーディネーターやミニティーチャー）として、グループ活動を先導する役割を担い、レクリエーション指導も行います。これらを通して、指導力やコミュニケーション能力、授業マネジメントに関わる能力などを身に付けていきます。



教職課程 担当教職員

脇野 哲郎
（健康スポーツ学科 教授/教職課程長/教職支援センター長）

片山 直幸（健康栄養学科 助教）
吉田 重和（健康スポーツ学科 教授）
杉崎 弘周（健康スポーツ学科 教授）
若月 弘久（健康スポーツ学科 准教授）
久保 晃（健康スポーツ学科 准教授）
佐藤 裕紀（健康スポーツ学科 講師）
針谷 美智子（健康スポーツ学科 講師）
高田 大輔（健康スポーツ学科 助教）
上田 純平（健康スポーツ学科 助教）
丸山 幸恵（看護学科 講師）
小林 房代（看護学科 准教授）
森 光雄（教職支援センター非常勤講師）
森泉 哲也（教職支援センター非常勤講師）
逢坂 健太郎（教職支援センター非常勤講師）**NEW**
戸川 美子（教職支援センター非常勤講師）**NEW**

菅原 直実（学務部教務課/教職支援センター）
阿部 つばさ（学務部教務課/教職支援センター）

※2024年4月現在

退職教職員

森泉 哲也（健康栄養学科 教授）
杉中 宏（教職支援センター非常勤講師）

杵淵 洋美（健康スポーツ学科 講師）
宮川 由美子（教職支援センター非常勤講師） ※2024年3月付

スペシャルインタビュー

今年度、本学教職支援センターに新しくお迎えした逢坂健太郎先生と戸川美子先生にスペシャルインタビューを実施しました。お二人の人物や教育に関する考え方がよく分かる内容になっています。教職を目指す学生の皆さんは、ぜひご一読ください。

おおさか けんたろう 逢坂 健太郎 先生



①趣味

今はテニスやスキーを楽しんでいます。テニスは、年齢やレベルに関係なく誰でも楽しめるスポーツです。今の私は、無理に球を追わないでラリーを楽しむことを心がけています。スキーも大好きで、自分で滑るだけでなく、スクールが忙しい時にお手伝いをしています。修学旅行で訪れる中高生に教えることが多いのですが、みるみる上達する姿を目の当たりにすることができ、生徒たちがスキーの楽しさを感じ、喜ぶ姿を見ると、とてもやりがいを感じます。

②学生時代に打ち込んできたこと

学生時代は、趣味と重なりますがスキーに打ち込んでいました。スキーサークルに入ったり、スキーのアルバイトをしたりして、スキーに没頭する日々を過ごしました。サークルの合宿やアルバイトを合わせると、年間60日位スキー場で過ごすシーズンもありました。大学時代にスキーを通して知り合った仲間たちとは、今でも繋がっています。学生の皆さんも、様々な活動を通して素晴らしい出会いがあるといいですね。

③現在（これから）求められる教員とは？

「教員である前に一社会人であれ」という考え方は非常に重要です。新潟市では、教員に求められる資質として「授業力・実践力」「組織マネジメント力」「人間力」の3つを挙げています。その中でも、「人間力」がすべての土台と考えています。教員は子供と接する時間が長く、大きな影響力を持っています。完璧な人間である必要はありませんが、人前でしっかり話ができることや、箸やペンの持ち方がきれいであるなど、一般的な礼儀やマナーを身につけていることが重要です。このため、「一社会人であれ」という意識を持つことが大切です。もちろん、「授業力・実践力」が高いことは重要ですが、これらの前提となる部分も考えるべきです。また、コミュニケーション能力や観察力も重要です。子供だけでなく、他の教職員や保護者、地域の方々とも積極的にコミュニケーションを取り、学校内組織の一員として自分の役割を全うし、他者を支えられる人材が求められています。

④教職を目指す学生に期待することは？

大学生生活は高校とは異なり、自分自身で生活をマネジメントしなければなりません。授業の履修や資格の選択も自分で決め、初めての一人暮らしでは衣食住全て自分で行います。これらの経験を通じて、まずは大学生活を楽しむことと親への感謝の気持ちを持つことが大切です。また、英語の学習もお勧めします。教職に就くかどうかに関わらず、英語でコミュニケーションを取れることは重要です。学校現場でも多国籍の子供や保護者が増えており、英語が役立つ場面が多いです。校内講座でも中学校レベルの英語に触れる時間があるので、ぜひ参加してください。さらに、教員は日々体力勝負です。心と体の健康を維持することはとても大切なので、日常生活で意識しましょう。また、専門外のスポーツや勉強にも挑戦し、視野を広げることが重要かと思います。

とがわ よしこ 戸川 美子 先生



①趣味

外に出たい気分の日には、おやつと熱いコーヒーを車に入れて「ドライブ」、そうでない日は、家の中でミシンや手芸で小物を作るのが好きです。ミシンの「カタカタカタ」や「トットトット」という音は心地いいです。

②学生時代に打ち込んできたこと

中学校時代はバレーボール部に所属していました。休日にはスキーに行ったり、スポーツ観戦を楽しんだりしていました。テレビ観戦が主ですが、甲子園や後楽園球場での野球、国技館での相撲を観戦することもありました。観客の歓声や拍手の雰囲気がとても好きです。

③現在（これから）求められる教員とは？

まず、「子供とたくさん接し、その中で子供から様々なことを学ぶ」ことが大切だと考えます。ICTの活用などが求められている現代ですが、基本は子供たちとの関わりの中から「自分がどのように行動すべきか」「どんな言葉をかけると良いか」を見つけ出し、次の指導に活かすことが重要です。さらに、自分自身の体験した「面白い」「楽しい」といった感情を子供たちに伝えてほしいと思います。教師自身が様々な経験を積み重ねれば、その感動は子供たちに伝わりませんし、視野も広がりにません。特に若い時期に多くの経験をしてほしいと願っています。ある授業で植物を育てるために畑を耕す場面があり、ふと子供から「植物もこんなフカフカなベッドのような土にいられて気持ちよさそうだね」という発言がありました。このような子供の感性や感覚は非常に重要です。タブレット学習では感じられないこのような体験や、その体験から得られる感覚も大切にしてほしいと思います。

④教職を目指す学生に期待することは？

私は、現代では多様な経験や体験の機会が増えていると感じています。学習ボランティアも以前に比べて盛んに行われているので、積極的に参加してほしいと思います。また、実習などで得た気づきを大切に、それを次のステップに活かすことが重要です。部活動や学習ボランティアの経験から多くを学べるので、ぜひ継続して取り組んでください。各活動を通じて関わる多くの人々から学ぶことも大切です。最近、校内講座に参加している学生が「実習に参加して社会情勢についても学ばなければならないと感じた」と発言していました。私も、学生に対して情報収集が足りないと感じていたので、このような気づきは非常に重要だと思います。体験や経験を通じて自分自身の気づきを得る場面を身近で感じる機会が多く、やはり多くの体験や経験を積んでほしいと強く思います。さらに、教職に興味がない方も積極的に教職支援センターを活用してほしいと思います。資料を利用したり、話を聞いたりするだけでも構いませんので、ぜひいらしてください。



お知らせ/今後の予定

▶教職担当教員による教員採用試験対策 学内講座

5月～7月にかけて、各種講座を開講中です。3・4年生を中心に積極的にご参加ください。2年生以下も歓迎します。

曜日	時限	講座	担当教員	備考
月	4限	直前総合演習Ⅳ（専門保体）	森先生	健康スポーツ学科3・4年生対象
火	1限	2次試験対策演習（模擬授業、集団討論、論作文、面接等）	脇野先生	
水	1限	直前総合演習Ⅰ一職教養&一般教養演習一	若月先生・久保先生	
水	3限	面接演習Ⅱ	戸川先生	
水	3限・4限	栄養総合演習Ⅱ（HN対象）	森泉先生	健康栄養学科対象
水	3限	教育課題演習Ⅱ	逢坂先生	
木・金	4限・5限	直前総合演習Ⅲ	丸山先生	看護学科の3・4年生対象

あとがき

今年度、新たに逢坂健太郎先生と戸川美子先生を本学教職支援センターのメンバーとしてお迎えすることができました。お二人は、長年にわたり新潟県内の学校現場でご活躍されており、その豊富な経験を学生たちに還元していただけのものと確信しています。ニュースレターNo.13では、そんなお二人のお人柄や教育に関するお考えをお聞きするためのスペシャルインタビューを実施し、掲載いたしました。学校現場の出身者だからこそわかる教育の現状と課題や、今求められている人材について詳しく伺っています。教職に関連するすべての方々にご一読いただくと幸いです。

(健康スポーツ学科 高田)



新潟医療福祉大学

教職支援センター ニュースレター
2024年7月19日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

✉ E-mail : kyoshoku@nuhw.ac.jp

🌐 WEB : https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/



WEB

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索